

標記につきまして、講義における印象に残っている言葉や感想等を報告いたします。

期日:平成27年6月13日(土)・14(日)

場所:熊本市立千原台高校(視聴覚室・体育館)

【研修会概要】

九州各県の審判員が参加する、今年度で開催3回目となる研修会です。

九州審判長である島村先生、熊本県の福島先生を中心として、講義や実技研修が行われました。スケジュールは、

○13日(土)13:00～17:00

13:00～15:00 講義

15:20～17:00 実技研修

○14(日)9:00～13:00

9:00～9:20 講義

9:30～11:50 実技研修

12:00～13:00 講義

【印象に残っている言葉】

- ・開始5分とラスト5分の集中
- ・開始5分間において、警告なのか退場なのかを示すこと
- ・時間と得点の管理 競技規則第17条
- ・笛の音色による説得力
- ・第8条の新構成 復習 2010年から構成が変わった
- ・機械的に組み合わせ、判定する
- ・ゴールエリアライン付近だけではなく、オフenseチャージングを活用し、ターンオーバーを狙うという国際的なトレンド
- ・サイドシューターのオフenseチャージングも有り得る
- ・パッシブ予告中であっても、判定基準は変わらない
- ・判定の運用、順番 方向指示→ジェスチャー
- ・審判としての仕事は、競技開始からではなく、ハーフタイムから始まる
- ・円滑な試合運営の為に、オフィシャルとの連携や、練習試合においてもデジタルタイマーやモップ担当者との関係作り
- ・チームの成果を出させること
- ・同じ失敗を繰り返さないために、努力を続けること
- ・各種スローにおいて、同じ注意が続けば、パッシブ予告を行う
- ・ボールを離れた後の攻防まで見る
- ・スポーツマンシップに反する行為は重罰 シュミレーションプレーに対しては罰則を

【感想】

研修を通じて、

- ・競技規則の理解と、より多くの試合を吹笛をし、経験を積むこと
 - ・日頃からハンドボールに触れ、目を慣らしておくこと
- が、大切なことだと感じました。